第139号 (平成29年1月25日)

▼歴史街道

日蓮無用論

仲條立

新年を迎えての抱負 巻頭言 …………

仲條拓躬

2

目次 \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

言(昭和31年協和会「昭和革新論」より) ●昭和天皇の御製⑭ |死刑とその執行に想う ...... 人類歴史は最終戦争時代に突入し、世界 コラム S N S 運営委員会のお知らせ ……… 会員便り の統一は眼前に迫った。われらは最小の 犠牲をもって、新しい歴史を開こう。 2、都市解体、農工一体、簡素生活、この三 原則によって新日本を建設し、搾取と戦 岩崎章次 争のない、人類次代文化の先駆となろ 﨑八九生 東亜に対する過去の態度を深く懺悔 まず近隣と道義によって固く結び、 8 8 て永久平和の実現に邁進しよう。 10

新年を迎えての抱

新しい年を迎えられた事と存じます。 におかれ 新たな年が始まりました。 ましては、様々な思 いを胸に抱きつつ同志・会員の皆様

を消し、国の年金制度さえ危なくなった。 などしないと思われていた銀行や保険会社

研究会の存在意義と役割が重要なものとなって現するかを模索してきた我が石原莞爾平和思想れた今、微力ながらもいかにして恒久平和を実 を立て直すことは急務な課題となっています。供など様々な課題が山積しており、会の骨組み いう非常に厳しい運営環境となっております。れからは若い世代で自らが判断して行動するとなどを頂きながら会を運営してきましたが、こ くると確信いたしております。 実に歩み続けて参りました。顧問からは、 さて、 また、 その一方で、会員の確保や質の高い情報の提 戦争を体験された方の多くが亡くなら 会の骨組み

いった。 思える。 た。米ソの核戦争が勃発して、放射能が地球を戦時代の40年間は、明日が予測できた時代だっする報復攻撃で無辜の民が大勢亡くなった、冷 くるのは当たり前と考え、世界の情勢どころか、 なったと思う。 覆い世界が終わるかもしれないという危険は常 を迎えられる事に期待が持てた。しかし明日が に存在したが、 ありますが、日本は社会の安定した形で明日のたと思う。世界の紛争で不安定な国や地域、存在したが、核戦争の可能性は非常に少なく 国のあり方まで考えずに過ごしてきたように 昨年は大変な年だった。テロ事件、それに対 その状況も冷戦が終わると変化して

テロ ロ行為が発生して、いつ何処で自分を核戦争の心配が遠のいた代わりに、 いつ何処で自分たちの生 現在 は

もその渦に巻き込まれ、 起こったIT革命で経済のグローバル と不安定な世界となった。 活が脅かされるか、 まるで予 企業の終身雇 がつ かな 用制 VI は倒度日時姿産は本に 混

仲條拓躬

なくなり、

バブル時の土地神話は崩壊し、

倒

(続けて参りました。顧問からは、助言お陰さまで、当会は少数精鋭でかつ着 考えていたのであろうか。現実を見ずに、言うではなくなった。日本人は戦後、自分でものをならないでしょう。米国の傘の下で、米国のいならないでしょう。米国の傘の下で、米国のいならないでしょう。米国の傘の下で、米国のいるのような世界の中で生き抜くためになった。このような世界の中で生き抜くためになった。

●石原莞爾の「戦後」を歩く⑨ … 6

野村乙二朗

食い止めなければなりません。これからの日本れてはいけません。恒久平和のため勇気を奮い先の尊い犠牲の上に平和な生活があることを忘ていないのです。私たち先の大戦での多くの祖なっている。当然ながら日本の国益を前提にし うのです。 が何をなすべきかを考えなければならないと思食い止めなければなりません。これからの日本 らは全て米国から指示されたレポート内容にる「集団的自衛権の行使容認」「TPP」これ けとなりたいものです。 現在大きな問題になっている、 安倍 によ

えを頂ければ幸いに存じます。 申し上げます。そして今後とも、一層のお力添て下さっている各方面の多くの方々に深く感謝 し上げますと共に、我々の活動にご支持を示しこの機をお借りして、同志のご支援にお礼申 <

れないだろう。今年は素晴らしい

時

代 の幕

ことを聞いていれば、嫌な事が通り過ぎ、考えていたのであろうか。現実を見ずに、

自

分

かっただろうか。もはや世界はそれを許してはの命も財産も守られると勝手に思い込んでいな

だしの一字ではないでしょうか。金メダルに象 個人も大きく誤ってしまうのです。 を手に入れる方法とその使い方次第で、 社会にとっても個人にとっても、 むかということが大切なのです。 のでしょうか。二位だってビリだって良いので 徴される一位、なんで一位でなければならない 挙がったようです。現実的と云えばそれまでで 舛添要一の「政治とカネ」の問題などが理由に 日本人選手の金メダルラッシュや前東京都知事 票のうち六千六百五十五票でいちばん多かった 年の漢字」は応募総数十五万三千五百六十二 金」に決まったとのことです。リオ五輪での なくてはならないものです。 要(よう)は何事にもいかに精一杯取り組 の年の世相を一字で表す、 なんともはや夢も理想もない、欲望剥き しかし、それ 言うまでもな カネ、お金は 社会も

均しからざるを憂う」という万民平等の社会正 野蛮生活に帰ることではない。自然と人為を完 次のように言っています。「簡素生活は断じて (中略)生活は東洋古来の「乏しきを憂えず、 の理想を実現すべく努力する」と。 石原莞爾は戦後すぐに『われらの世界観』で 科学と芸術が混然融合した生活である。 真に人類の生活を永遠ならしめる

(岩崎)

えようとする未来志向が感じられた。 で安倍総理がパールハーバーを訪れた。共に オバマ大統領が広島を訪問し、それに応える 日米不戦の誓いと過ちを乗り 配慮から互いに 謝罪」 の言葉

> 戦争は辛勝だったものの世界史的な快挙であ 露戦争も同様と言えよう。しかし結果は、 他方太平洋戦争は惨敗であった。 言うまでもなく無謀であったが、それは日 (と同時に軍事技術の差)を勘案す (大東亜戦 は、 日米の 圧 日露 倒 n

えてみた。 め様々なことが指摘されているが、 この真逆の要因について、これまで僥倖も含 私なりに考

を知っていた。それに対し、太平洋戦争はアメ にも幻惑された。 リカどころか、己のことさえも本当は分かって いなかったのではないか。またドイツの快進撃 大さ」は十分に知らずとも少なくとも己(日 日露戦争時の日本の指導者は、「ロシアの強 本

必敗する」と指摘している。 分の勝算があるが、敵を知らず己を知らざれば 孫子も「敵を知らずとも己を知っていれ ば五

の空気が官民共にあったという。 だから」とか「神国日本が負ける訳はない」と た。「国力差が圧倒的だったロシアに勝てたの さらに言えば、 日露戦争の成功体験が災いし 正に「成功は

ルーマンをどう思うか」と意見を求めた。 宿舎だった酒田ホテルを訪ね「ゼネラルは、 昭和22年、UP記者とAP記者が石原莞爾

りなくとも日本はもう参っていた。鳶に油揚げなってソ連を参戦させたのか。ソ連の助けを借 をさらわれるようなものではない は政治家の落第生だ。彼はなぜ戦争の土壇場に 全世界諸国こそ、 石原莞爾は単刀直入に言った。「トルー いい迷惑だ。 ルーズベルトに か。 おかげで マン

★発行所

ろがソ連の真意がわからず、 たり寄ったりだ

国府、 的国家的なトラブルが起きている。 全世界のいたるところで共産主義との間に民 結んだおかげで今日のような東欧、西欧、中共、 界平和が来ると思ったことだろう。 ズベルトもトルーマンもソ連と手を 南北朝鮮のように、不幸な対立が生じ、 ヤルタ協定などを とこ

たにもかかわらず、 島までの諸島が、ロシアから日本に譲与され 権利と引き替えに、ウルップ島からシュムシュ 千島交換条約により樺太全島における日 た。日本固有の領土として、 領しシベリア抑留で大勢の日本人が亡くなっ 日本を攻め満州国は崩壊、 不可侵条約は締結したが、 これこそ、石原莞爾の戦略眼だった。 は残念なことです。 現在もこのような状況 日本国の ソ連は 北方領土は樺太 条約を破り 領土も占 本の H

江

〒179-0076 東京都練馬区土支田3-46-7 山﨑行政書士事務所内

0

石原莞爾平和思想研究会

Ш

TEL(FAX兼用) 03-3925-2353(山崎) 郵便振替 00130-9-410942 仲條拓躬 発行人

編集人 「永久平和」編集委員会 200円 (送料別)

定価 会費(年間) 篤志会員 10000円以上 般会員5000円、誌友会員4000円

第139号 平成29年(2017年)1月25日発行